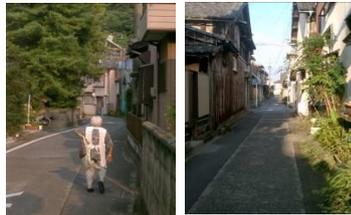


モデル事業名	小松楼を核とした“とも＝協・共・友”のまちづくり仕組み創出事業
活動団体名	新居関所周辺まちづくりの会
ホームページ	http://a-machinet.org/ メール: info@a-machinet.org
所属/担当者名	(有)アムズ環境デザイン研究所 高木 敦子
連絡先	054-247-1511 amzatsu@ybb.ne.jp
活動地域	静岡県浜名郡新居町 新居関所周辺5地区(栄町、泉町、俵町、船町、仲町)

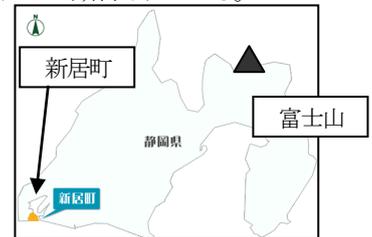
● 活動地域の概要

—新居町は、浜名湖と太平洋面し、旧東海道の関所として栄えた町である。対象地域となる区は、町の中心市街地にあり、国の特別史跡・新居関所と、300年前に作られた町割がそのまま残り、江戸、明治、大正時代の建物が点在する歴史的な雰囲気のある地区である。また、280年続いている「新居手筒花火」など祭り等の活動は活発であり、良好なコミュニティが形成されてきている。平成10年には5地区連携による「新居関所周辺まちづくりの会」を設立し、関所等を訪れる来訪者にむけての看板、説明板の設置、マップづくりなどまちの歴史や文化を活かした活動を行ってきており、また町を案内する案内人組織も立ち上がり来訪者へガイドなど積極的に行い、町の文化や歴史を発信してきた。

—小松楼は明治時代に建てられた芸者置屋であり、3年間空き家になっていたが平成18年度、町の有志が持ち主の了解を得て清掃・補修を行い、現在は土日の公開、各種展示等の開催、総合学習など子どもたちの教育の場などにより、延べ7000人以上が訪れる施設である。平成20年度には町が購入を決めまちづくりの活動の拠点として期待されている。



【路地の清掃など良好なコミュニティがある一方高齢化が進む】



● 活動地域の課題

—年々空き家、空き地が増加し、平成16年の5地区人口は1775人であったが、現在は1603人となっている。また、町の人口17,629人のうち、高齢化率は23%程度のなか当地区では、34%と高齢化も進み、さらに若年層(14歳以下)は9%コミュニティを維持することが難しい状況である。平成22年には湖西市との合併が予定され、今まで町の中心であった当地区が中心地区とはならない状況となる。

	H16年	H21年
人口	1775人	1603人
世帯数	562	568
高齢者	426人	542人
14歳以下	—	148人

● 活動の内容

1. いつでも井戸端サロン事業の実験

地区コミュニティ施設さらには来訪者のビジターセンターとなる小松楼の活動プログラムを対象層ごとに企画・実施する。

- 5地区それぞれで地区住民を対象とした説明・意見交換会を実施、住民ニーズを把握する。
- 高齢者、子ども達、一般住民が集い、コミュニティが図れるプログラムを4つ程度企画実施する。
- 来訪者へ町の歴史や文化を発信するインフォメーション拠点、情報拠点として機能の充実。
- 実験プログラム体験者へのアンケートおよびヒアリングの実施

2. 担い手づくりワークショップの会議の実施

小松楼を清掃・補修した有志(現在はまちづくりの会に参画)を中心に地区を支える担い手として継続的な活動を行っていくため組織設立について話し合い、NPO法人化を目指す。

- まちづくりの会をはじめ町内で活躍する各活動団体のメンバーで地区の実情にあった組織のあり方について検討ワークショップを実施する
- 組織体制方針等を作成し、規約やメンバー等組織体制を具体的に示す。
- NPO法人申請書の作成と認証にむけてのPR

3. 歴史・文化発信ビジネスモデル創出

“とも＝協・共・友”のまちづくり“の仕組みを維持継続し、地域の状況に即した活性化活動を資金的に支えるためのビジネスモデルを創出する。今年度は町案内のビジネスモデルの確立と町の歴史・文化施設の管理業務委託の可能性を探る。

- 時間、距離の散策ルートを設定と魅力ポイント解説散策マップの作成
- ホームページ、PRチラシの作成などによる広報宣伝
- 町めぐり案内のシステム化と料金設定・有料グッズ(マップ・地場産品)の整理
- 施設管理委託条件の整理と来年度の受託の諸条件の調整
- 利用者からのアンケート実施による満足度とニーズ把握

● 活動の成果 平成21年度

<実施状況>

1. いつでも井戸端サロン事業の実験

- (1) 対象者別(子ども・住民・高齢者・来訪者)の4つのプログラムの実施
 - ①井戸端寺子屋事業 ②午後の縁側事業
 - ③お月見コンサート事業 ④懐かしフィルム映写会事業
- (2) 小松楼のビジターセンター機能の充実
 - ①散策マップ・周辺地域パンフレットの設置 ②サロンの実施(午後の縁側)
 - ③土曜日の一般開放の定着化(積極的な告知やローテーションづくり)
- (3) 住民ニーズの把握
 - ①プログラム別のアンケートの実施(約300) ②住民説明会・ヒアリングの実施



2. 担い手づくりワークショップ会議の実施

- (1) 担い手づくり検討会議の開催
 - ①主要メンバー会議の実施(3回) ②全体会議の実施(8回)
- (2) 法人化手続きの実施
 - ①9月静岡県NPO申請書の提出 ②12月NPO法人承認 ③H22年1月登記手続き終了

3. 歴史文化発信 ビジネスモデル創出

- (1) 散策定番ルートの設定とマップの作成
 - ①現地調査の実施⇒②資源の整理ルート設定案の検討⇒③ルート設定案モニター調査の実施⇒④散策ルートの確定(2ルート)⇒散策マップの作成(1万部)
- (2) ビジネスモデルの検討
 - ①小松楼サロンの実施と有料化への利用者ニーズの把握(アンケート実施)
 - ②町案内の有料化への検討(アンケート実施、マップ掲載商店のニーズ把握)
 - ③小松楼指定管理についての検討⇒(新居町の管理者制度導入)
- (3) 広報・PR活動
 - ①ホームページの立ち上げ⇒HPを立ち上げていない関連団体も掲載している
 - ②小松楼通信の発行(1号～3号)



<地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等>

- 層化別のプログラムの実施、それらを伝える通信やホームページの発信などにより、小松楼を核にまちづくりセンター的な機能を持つこと、また来訪者の情報提供などのビジターセンター的な機能を持つことについての理解は深まった。アンケート結果でもこれらの活動について「ぜひ進めるべき」「進めるべき」という回答が8割以上であった。
- 担い手づくりではNPOが設立され、従来の活動のほかに住民や活動団体同士を結びつける中間支援としての活動をおこなっていくことを目指している。町では1月よりそれらを学ぶ「まちづくり塾」を3回町民向けに実施してくれることとなり、活動への後押しとなっている。
- 本事業で作成したマップに掲載した商店へ次回増刷の際に協賛金の協力へ依頼したところ良好な返事を得ており、それらを有料で来訪者に提供することも検討されている。
- 立ち上げたHPを通じて、ネット会員を募集したところ数名の会員も獲得した。

● 今後の課題及び展望

・課題

- 本町においては、住民の理解を基本に活動を進めていくことが重要なポイントである。そのための情報発信、協議会等の組織の確立などが必要であり、また実施するプログラムの有料化等については慎重に進めていく必要がある。
- 行政、住民とも本団体への期待が高いなか、従来の活動、中間支援的な活動を進めていくためにNPOを立ち上げた。このNPOが円滑に運営を図るための事務局体制など実務的な視点で構築する必要がある。

・展望

- 町が合併前に小松楼の指定管理について条例化等の手続きを進めている。湖西市となっても本団体(NPO法人)が小松楼を核とした活動を続けていける目途が立ちつつある。
- 日本財団より小松楼の改修についての補助金をいただけることとなった。改修後にはまちづくりセンター、ビジターセンター機能の充実を図った展開ができることとなった。
- 寺子屋、総合学習の参画など子供向けプログラムを実施し、地域の子どもが町の歴史や文化、まちづくり活動などに関心が高まった。次世代の育成につながっている。